

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：西洋中世哲学入門 ILAS Seminar: Introduction to Western Medieval Philosophy			担当者所属 職名・氏名	文学研究科 教授 周藤 多紀		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	15(7)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	金5	教室	文系学部校舎 304号室 周藤 研究室(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	思想史関連 / 西洋中世哲学 / 倫理思想 / 愛 / 意志						
[授業の概要・目的]							
本授業では、西洋中世哲学への誘いとして、フランスの西洋中世哲学史家エティエンヌ・ジルソン（1884-1978）の著作『中世哲学の精神』の下巻（筑摩書房、1975年）を精読します。 ジルソンは、フランスを代表する哲学史研究者のひとりであり、デカルトとスコラ哲学との関係を起点にして、西洋哲学、とりわけ西洋中世哲学の研究を進めました。ギフォード講義を基に出版された本書は中世哲学の特徴を明解に論じたもので、ジルソンの中世哲学に対する博識と卓越した洞察を示しています。世界の中世哲学研究は、ジルソンの時代から大きく変貌を遂げていますが、ジルソンの洞察から学ぶべきものは少なからずあるように思われます。 本授業では、本書の後半部を批判的に検討することを通じて、西洋哲学、とりわけ西洋中世哲学とは何かを考察することを目的としています。その作業を通して、本格的な哲学研究書を読解し、批判的に考察する能力を身につけることを目指したいと思います。							
[到達目標]							
西洋中世哲学に関してその重要な問題のいくつかを説明できるようになること 本格的な哲学研究書を適切に理解し、批判的に考察できるようになること							
[授業計画と内容]							
授業ではジルソンの『中世哲学の精神』の後半部を精読していきます。2回かけて1章分を終える予定です。事前にその回の発表担当者を決めて、あらかじめその日に読む箇所の議論を整理してもらいます。授業の最初に発表担当者が他の参加者に説明を行い、その後で全員で検討するという手続きをとります。第15回目の授業はフィードバックとします。 第1回 イントロダクション、講師による「愛とその対象」の章の前半部の内容紹介 第2回 「愛とその対象」（つづき） 第3～4回 「自由意思とキリスト教的自由」 第5～6回 「法とキリスト教的倫理」 第7～8回 「意図、良心、義務」 第9～10回 「中世と自然」 第11～12回 「中世と歴史」 第13～14回 「中世と哲学」 第15回 フィードバック							
----- ILASセミナー：西洋中世哲学入門(2)へ続く↓↓↓ -----							

ILASセミナー：西洋中世哲学入門(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

成績評価は、以下のように行います。
発表担当の役割を適切にこなすこと（一人2回を予定）80点満点
毎回の議論に積極的に参加すること 20点満点

[教科書]

ジルソン『中世哲学の精神 下巻』（筑摩書房、1975年）（現在入手が困難ですが、図書館で借りることはできます。授業で必要部分のコピーを配布します。）
講読に必要な資料のコピーは授業で配布します。

[参考書等]

（参考書）
マレンボン『哲学がわかる 中世哲学』（岩波書店、2023年）ISBN:4000615947（最近の中世哲学研究を知るのに最適です）

[授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者は、事前に議論する箇所をまとめてレジュメを作成してください。
その他の参加者は、各回に議論する箇所を丁寧に読んでおき、分からないことや疑問に思うことを授業中に説明できるように準備してください。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]